

## 第1回那須塩原市総合計画審議会の結果について【要旨】

## 1. 開催概要

- ・日 時：令和3（2021）年4月15日（木） 午前10時～午前11時50分
- ・場 所：那須塩原市役所本庁舎 303会議室
- ・参加者：那須塩原市総合計画審議会委員22名、事務局（企画部企画政策課）

## 2. 総合計画審議会への諮問事項

- 1 第2次那須塩原市総合計画基本構想及び前期基本計画の1年延長について
- 2 第2次那須塩原市総合計画基本構想における人口ビジョンについて
- 3 第2次那須塩原市総合計画後期基本計画について

## 3. 議題

- (1) 第2次那須塩原市総合計画基本構想及び前期基本計画の1年延長について
- (2) 第2次那須塩原市総合計画後期基本計画の策定方針について
- (3) 策定スケジュールについて
- (4) その他

※ 議題は全て承認。諮問事項の内、「1」については即日答申。

## 4. 主な発言内容

## ○総合計画

- ・計画を1年延長する理由として「施策の進捗が図れない可能性がある」とあるが、実際にコロナの影響なども含めて施策の進捗自体がどうなっているのかを説明したうえで、達成可能かどうかを言及するというのがセオリーではないか。
- ・総合計画には多くの施策が書かれているが、これを市民にいかにわかりやすく伝えて、活かしていくかということが大事。

## ○人口ビジョン

- ・人口ビジョンは、国が地方創生を出したときに合計特殊出生率が2.07という数字を用いて算出しているが、それでいいのかという疑問がある。人口ビジョンを見直すのであれば、本当に合計特殊出生率が2.07を目指すということでもいいのかということも含めて見直す必要があるのではないか。

## ○コロナ禍・アフターコロナ

- ・コロナの影響があって、社会情勢の変化が生じており、後期計画の策定期間などを伸ばすなどの影響が出ているが、基本構想も同じでいいのかどうかというレビューはしておいたほうがいい。
- ・新型コロナウイルスの影響について、ミクロ的にはネガティブなことが多いが、那須塩原市という環境を考えたときに、移住・定住の候補地となり得るなど、ポジティブな状況ではないかと考えている。

- コロナ禍において、特に高齢者が自宅に引きこもりになった。こういう時こそ、地域包括支援システムが必要。さらには、このシステムから共生社会の仕組みをつくる必要がある。
- コロナで社会が変わっていく中で、5年前に策定した基本構想に基づいて後期基本計画を作るということであったが、コロナで社会が変化した場合、それを踏まえて策定する後期基本計画が基本構想に矛盾するようなものにならないよう、整理した方がよい。
- コロナをポジティブに捉えていて、コロナ前に戻るのではなくて、「那須塩原市2.0」というようなバージョンアップしていく市を目指していくというところに発想がいくといいのではないかな。

### ○市の魅力・発信

- 那須塩原市は、新幹線が通っていて交通アクセスに恵まれており、なによりも自然環境が整っていて、人口を増やすことも可能だと思う。こうした魅力的なことを、もう少し上手に発信していければよいのでは。
- 那須塩原市は生乳生産本州一であり、チーズはブランドとして作っている。那須のブランドをつくっていくということが大事。
- 市の魅力など発信の仕方として、もっと外に外にということを重点的にやっていった方がいいのではないかな。
- 「エールなすしおばら～夢が動き出すまち～」という市のブランドメッセージが市民に浸透していったって、空気感として「開拓のまちだから、頑張っている人を応援する土壌がある」「この地域だから頑張れるという土壌がある」という那須塩原市の良さを出していけたらいいのではないかな。
- 那須塩原市は非常に魅力的なところである。魅力の1つとして、自然が身近にあるということと、都会では全く味わえない生活ができるので、その魅力をぜひ持続して欲しい。

### ○デジタル化

- コロナの影響で観光がストップしているが、コロナ禍で唯一できるものはワーケーション。温泉街などインターネット環境を一部整備したところもあるが、まだまだ環境整備が整っていない。
- 今年度から小中学校においてGIGAスクール構想が始まり、1人1台のパソコンをもって勉強することになる。その一方で、不登校が増えたり、人とのつながりが苦手な子が増えたりという現状がある。GIGAスクール構想が進む中で、人とのつながり、関わりという部分も非常に大事であると考えている。
- DXの影響が大変大きくなってきている。DXは、行政サービスや産業支援に非常に大きな影響を与えるので、先進自治体などの事例も参考にしながら、後期計画の中で取り組んでいただきたい。

### ○移住・定住施策

- コロナにより東京に住む意味を感じていない人もいると思うので、関係人口や二拠点居住などの視点も踏まえて、発信の部分も含めて、若い方が住んでみたい、また、長く定住できるような施策が必要。

- 子育てしやすいまちであれば、若い世代が引っ越してきて、定着もすると思う。子育てに理解があり、子供目線で安全・安心なまちというのが、誰にとっても住みやすいまちになるのではないか。
- 那須塩原駅前にサテライトオフィスというのが、このコロナ禍で実現できるようになったのではないかと考えている。首都圏の大企業はテレワークで仕事が可能となり、1週間に1回の出社は新幹線を利用してとなれば、那須塩原駅が利用できる。こういったことを具体的に検討していくとともに、市の魅力発信も含めて、移住・定住促進の受け皿となる施策を実行していくことで、将来の人口減少にも歯止めがかかるのではないかと考える。まさに今がチャンスだと考える。

#### ○防災・減災

- 総合計画の基本施策の中で、重要だと思っているのは「安全・安心」というカテゴリ。那須塩原市は災害が少ないという風潮があり、自治会で防災訓練をやっても人が集まらない。地域で防災・減災を考える、そのような仕組みが必要。
- 総合計画に「消防団を充実・強化する」とあり、団員の充足率についての目標値があるが、現実として団員は減っていく一方である。団員の高齢化も進んでおり、団員をどう確保していくかが一番の課題。

#### ○環境・再生可能エネルギー

- 市内でも太陽光発電の開発が進んでいるが、設備をつくるために相当の森林伐採がされている。自然環境を保護するということと、CO<sub>2</sub>を出さないということの折り合いをどうつけていくのか、ということも含めて考えていかなければならない。

#### ○市民協働

- 市民協働による地域づくりというのがあがるが、地域というのは住民が作るもの。課題を共有し、それぞれが知恵を出し合って進めていくべき。